

遷移温度

遷移温度 せんいおんど

transition temperature。フェライト系鋼材（炭素鋼、低合金鋼）のシャルピー衝撃試験を高温から低温に互って行くと、温度が下がるにつれて破壊エネルギーが減少し、いわゆる遷移現象があらわれる。この遷移領域を境とし、これ以上の温度では延性破壊し、以下では脆性破壊する。正確には延性・脆性遷移温度（ductile brittle transition temperature）という。遷移領域を特性づける温度が遷移温度であり、通常、吸収エネルギーで30ft・lb（41J）、50ft・lb（68J）に対応する温度、35mils（0.89mm）の横膨出量を示す温度等が用いられている。

<登録年月>

1998年04月
